

# 現役世代に発症する 若年性認知症をご存知ですか？

64歳以下の方が認知症と診断されると、若年性認知症と呼ばれるようになります。物忘れが出はじめ、仕事や生活に支障をきたすようになって、まだ若いという思いで認知症であるとは気づかなかつたり、病院で診断を受けても、うつ病や更年期障害などと間違われることもあり、診断までに時間がかかってしまうケースが多く見られます。



64歳以下の人も認知症になる場合があることを理解してください

若年性認知症と診断されました…。これからどうしたらよいでしょうか？

**最寄りの地域包括支援センター**  
お住まいの地域にあり、専門職の人が認知症についての相談に対応します。

**医療機関のソーシャルワーカー**  
お住まいの地域にあり、専門職の人が認知症についての相談に対応します。



ご本人もご家族もこれからのことが不安ですね。まずは、様々なことを相談できる場所を見つけましょう。

**奈良県若年性認知症サポートセンター** (Tel.81-3857)  
若年性認知症支援コーディネーターが介護者を含む家族全体の生活安定を図る調整を行ないます。

**奈良市役所**  
福祉政策課や障がい福祉課における制度について相談できます。

**奈良市認知症相談窓口**  
認知症及び若年性認知症に関する相談、早期発見、予防などさまざまな相談に応じます。

## 早期の気づき大切です

日常生活において、認知症と気づくポイントや留意すべき点を理解しましょう。

具体的な  
チェック  
ポイント



早期発見は大変重要。早期に治療を開始することが出来れば、進行を遅らせることが出来、公的支援も早く受けることが出来ます。

同じことを何度も聞く
伝言したことがうまく伝わらない
電車・バスで乗る駅や降りる駅が分からない
よく知っている道なのに迷ってしまう
通帳、印鑑、財布などをよく失くし、家族が盗ったという
いつも同じ服を着て着替えたがらない
家電製品の使い方がわからない
テレビや新聞を見なくなる、関心がなくなる
風呂に入りがたがらない
好きだった趣味の活動をしなくなる
鍋を焦がす、ガスの火を消し忘れる、水道の水を出しっぱなしにする
外出したがらない

**本人の気持ち**  
これまでの自分とは違うことに戸惑い、悔しさ、不安、焦りを感じています。

**家族への影響**  
大黒柱の方が認知症になるわけですから、精神的にも、経済的にも家庭内に大きな問題を引き起こします。